



令和6年度 日本大学国際関係学部

上期 市民公開講座

統一テーマ

スポーツ文化と フランス文化を知ろう

～パリオリンピック・パラリンピック開催を前にして～

第1回 6/5 (水) フランス人の考え方に迫る! ～教育・仕事・社会から紐解くフランス～
日本大学国際関係学部 助教 G.オリビエ

第2回 6/12 (水) オリンピックってどんな存在? 日本とフランスの柔道の捉え方
日本大学スポーツ科学部 教授 北田 典子

第3回 6/19 (水) パラリンピックから考えるスポーツの多様性
日本大学国際関係学部 助教 加藤 秀治

第4回 6/26 (水) アルベール・カミュの『手帖』—事後的に加えられた修正の謎
日本大学国際関係学部 准教授 高塚 浩由樹

時間 18時15分～19時45分

定員 400名

受講料 無料

会場 三島駅北口校舎1階大教室

申込資格 参加自由

主催 日本大学国際関係学部／日本大学短期大学部(三島校舎)／日本大学国際関係学部国際関係研究所

後援 三島市／三島市教育委員会／裾野市教育委員会／清水町教育委員会／長泉町教育委員会／函南町教育委員会／しずおか県民カレッジ連携講座

令和6年度 日本大学国際関係学部

上期 市民公開講座申込要項

- 1 申込資格：どなたでも参加できます。
- 2 会場：定員 400名
日本大学国際関係学部山田顕義ホール
国際関係学部三島駅北口校舎 JR三島駅北口前
- 3 申込方法：別紙の「申込書」に必要事項をご記入の上、郵送またはFAX・メールでお申し込みください。
あて先 〒411-8555 三島市文教町2丁目31番145号
日本大学国際関係学部 研究事務課 市民公開講座係
FAX 055-980-0879
E-mail: ir-kouza3@nihon-u.ac.jp
※「申込書」にご記載の個人情報は適切な方法で管理します。本講座に限定使用し、第三者には開示・提供いたしません。
- 4 問い合わせ先：日本大学国際関係学部 研究事務課
TEL 055-980-0808
- 5 申込期日：各開講日の2日前まで（出席者名簿を作成するため）
- 6 受講料：無料
- 7 注意事項：
 - (1) 講師の病気、その他やむを得ない事情により、講座を延期または中止することがあります。
 - (2) 受講許可の通知はいたしませんので、当日、直接会場にお越しください。
 - (3) 万一の場合（休講など）の連絡をいたしますので、「申込書」には住所・電話番号を必ずご記入願います。
 - (4) 本校では車・バイクの乗り入れはできません。徒歩または電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。



会場 日本大学国際関係学部三島駅北口校舎

令和6年度 上期市民公開講座のご案内

統一テーマ

「スポーツ文化とフランス文化を知ろう ～パリオリンピック・パラリンピック開催を前にして～」

夏季オリンピックとパラリンピックが、7月26日からフランスのパリを中心に開催されます。開会式直後の翌27日には最初の決勝戦が予定されており、柔道、競泳、スケートボードなどで選手の活躍を期待し、早朝3時ごろから国際中継映像を見ながら、声援を送ることになるでしょう。

この度の公開講座では、「スポーツ文化とフランス文化を知ろう～パリオリンピック・パラリンピック開催を前にして～」という統一テーマの下、日本大学国際関係学部、スポーツ科学部の先生方にお話をいただくことになりました。

「スポーツ文化」に関しては、オリンピック柔道の銅メダリストの北田典子先生、パラリンピックについて加藤秀治先生から、また、「フランス文化」については、フランス人のG.オリビエ先生と作家アルベール・カミュ研究者である高塚浩由樹先生からご講演をいただきます。講演者の想いに触れることにより、スポーツ文化とフランス文化への興味を深めていただければ幸いです。

皆様のご来場（国際関係学部、三島駅北口校舎）を心よりお待ちしております。

第1回 6月5日(水)

「フランス人の考え方に迫る！～教育・仕事・社会から紐解くフランス～」

G.オリビエ／日本大学国際関係学部 助 教

今年は、パリオリンピック・パラリンピックの開催と相まって、フランス文化に関する報道が多くなると思われます。そこで本講演では、フランスの習慣・特徴を紹介しながら、フランス人の価値観やものの捉え方について解説していきます。具体的には、「なぜフランスにストライキの文化があるのか?」、「フランスにおける『考える力』の育て方とは?」など、教育、仕事、社会の観点からフランス人の考え方に迫り、フランス人の考え方や行動への理解を深めます。

第2回 6月12日(水)

「オリンピックってどんな存在？日本とフランスの柔道の捉え方」

北田典子／日本大学スポーツ科学部 教授

柔道は日本発祥の武道、しかしフランスでの柔道人口は、日本の3倍と柔道人気が高い。

なぜこのように日本の柔道がフランスでは受け入れられているのか？

なぜ発祥国の日本ではそれほどの人気が得られないのか？

柔道の歴史と共に柔道と言う日本の武道を考えていきましょう。またオリンピックと言う舞台での体験や、金メダルに到達するまでの選手たちの苦悩、日本選手が背負っている責任など、頂点を極めた多くの金メダリストの共通点や、メダルの価値についてお伝えします。

同時にフランスでの「柔道」に対する捉え方がどのようなものなのか？その捉え方が柔道人口に直結しています。日本の誇れる柔道を皆さんと共に考えていきたいと思えます。

第3回 6月19日(水)

「パラリンピックから考えるスポーツの多様性」

加藤秀治／日本大学国際関係学部 助教

パラリンピックとは、障がいのあるアスリートが出場できる世界最高峰の国際競技大会である。今回は8月28日から9月8日の日程でオリンピックと同じくパリにて開催される。前回の東京大会に向けて日本では多様性の尊重を含めたパラリンピック教育が展開された。障がい者スポーツの大会ではクラス分けやルール変更などの工夫によって競技が実施されている。本講演では、競技紹介やルール解説も含めつつ、パラリンピックを通してスポーツの多様性について考えていきたい。

第4回 6月26日(水)

「アルベール・カミュの『手帖』—事後的に加えられた修正の謎」

高塚浩由樹／日本大学国際関係学部 准教授

『異邦人』や『ペスト』で知られるフランス人作家アルベール・カミュは、1957年に44歳の若さでノーベル文学賞を受賞する。しかし、その約2年後、彼は自動車事故でこの世を去る。死後に出版された『手帖』は、不慮の死によって遺された、彼の人生と芸術の「客観的証拠」とみなされてきた。だが、カミュは生前、『手帖』の一部に修正を加えていた。そして、出版された『手帖』に採用されたのは、修正後の原稿だったのである。カミュは、いつ、そして、なぜ、自分の『手帖』に修正を加えたのか。本講演はこの『手帖』の修正の謎に迫る。